

## 平成28年度第1回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎招集年月日 平成28年5月17日(火)
- ◎開催日時 平成28年6月10日(金) 午前10時30分～11時47分
- ◎場所 伊那市役所 庁議室
- ◎出席者 白鳥市長、松田教育委員長、宮脇教育委員長職務代理者、田畑教育委員、原田教育委員
- ◎欠席者 なし
- ◎出席職員 北原教育長、大住教育次長、北野学校教育課長、小松生涯学習課長、捧文化振興課長、宮下スポーツ振興課長、中村指導主事、唐木指導主事、山崎教育総務係長

### 1 開 会

大住教育次長

皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、本年度第1回目の総合教育会議を始めたいと思います。初めに市長からごあいさつをお願いします。

### 2 市長あいさつ

白鳥市長

おはようございます。大変気持ちのいい天気でありまして、先程は鳩吹公園で東京都立葛飾野高校の生徒320名、それから、伊那西小学校の児童10数名で記念植樹をしてまいりました。6月5日の日に全国植樹祭で、エムウェーブで皇后陛下がお手植えされた木がタカトオコヒガンザクラということで、それを一部こちらに持ってまいりまして、コウヤマキとシナノキ、それにタカトオコヒガンザクラの3本を植えてまいりました。あいさつのなかでも、これから大きくなるにつれて、みんながいとのおしみ、気にかけてもらうということをして是非してほしいという話をしてきましたけれど、子どもたち、とくに小学生の目が輝いているのが印象的でした。

昨日まで3日間、全国市長会ということで、東京の方で会議をしてまいりました。その間、国会議員のところ、宮下先生、吉田先生、あるいは、小泉進次郎さんのところですね、いろんなところを回って話をしてくるなかで、昨年、遠隔教育ということで、伊那市が、小泉進次郎さん、政務官だったんですが、と、平副大臣の前でプレゼンテーションをして、高い評価を受けたということがございまして、その遠隔教育についても、今回の国のIoTを使った地方創生、その中に組み込んで提案をしてまいりました。経済産業省でも担当の課長、あるいは、審議官と打ち合わせをするなかで、伊那市のIoTを使った遠隔教育、ドローンを使った獣害対策、あるいは、それに付随するもの、そして農機具の自動運転というのは、これは非常に先進性が高くで発展性があるという評価を受けましたので、是非、教育面においては、今年はさらに踏み込んで、小規模校の教育について力を入れたいと思うわけでありまして。それで、石破大臣と話をする機会があって、はっきり言われたのは、「やはり、地方創生は、やる気のあるところとないところでは姿かたちが全く変わってしまう。」と、「査定についても、ゼロ査定の市町村もあれば、100%査定の市町村もある。」ということがもう始まっているので、まさに、待っている時代ではなくて、自分たちが考え考え実

行し、また、それを繰り返して行くという時代に入ったんだなと感じたわけです。「できないことの理由を言う、そうした自治体については、もうその時点で無理ですよ。」という厳しい話もありましたが、伊那市はおかげさまでスタッフもそろい、職員の力もありますので、しっかりとそうした方向に歩み進めていきたいと思えます。特に教育は地域の将来を考えるうえで最も重要なものになります。子どもを育てる、教育をする、地域の教育について真剣に議論するということが極めて重要でありますので、是非この総合教育会議、そうした闊達なる意見をいただきたいということ、また、新しく教育委員になられた原田さんがおりますので、新しい目でご意見を賜ればと思えます。以上です。

大住教育次長

続きまして、松田教育委員長、お願いいたします。

### 3 教育委員長あいさつ

松田教育委員長

改めて、おはようございます。

ふたつお話をさせていただきたいと思えますけれど、一つは、伊那市の教育委員会が最重要課題として取り組んでいる「暮らしのなかの食」なんですけれど、実は私の在所の長谷には「麦わら帽子の会」というのがありまして、食材を学校給食に提供していたんですが、高齢化が進んできて、「ちょっとこれ以上は無理だ。」という話が出た時に、地域住民で構成する「溝口未来プロジェクト」が、「じゃあ、おれたちがやろう。」ということで、長谷保育園の隣に大きな畑を無償でお借りして、野菜作りに取り組んでおります。これを大変ありがたいなあと感じておりまして、保育園・学校が主体でやってきたものが、地域の皆さんがこの「暮らしのなかの食」に関わってきているということで、充実した状況を期待したいと思っております。

二つ目は、新聞のコピーを付けておきましたけれど、「伊那市の社協が『まちの縁側』認定」の記事なんですけれど、実は、私も地域では高齢者の仲間に入っておりまして、声をかけていただきました。それで、行ってみたら、会長さんが心配して「集まらないんじゃないか。」と言っていたのが逆で、部屋に入りきれないほど集まって、お菓子や手作りのおかずを持ち寄ってお茶を飲んで懇談した後、長谷中学校のメインである花づくりのお手伝いをしていただきました。苗床からポットに移す作業がとても大変な作業で、34名しかいない生徒達が半日以上かかる作業なんですけれど、高齢者クラブの皆さんのお手伝いで、1時間足らずでできてしましまして、学校は大変感謝をしておりまして。そういう姿を見まして、地域の教育力が低下してきていると言われますけれど、そうではなくて、掘り起こしを怠っているのではないかというふうに思いました。伊那市の地域の皆さんは真摯でありますし勤勉でありますので、話しかけていけば、どんどん復活してくる、そういう思いであります。今日は教育委員会の今年度の運営方針をご協議いただくわけなんですけれど、共通の理解に立ちまして、28年度の教育行政に努めていくことができますようによろしくお願いいたします。

大住教育次長

続いて協議事項に入ります。あらかじめ報道機関の皆さんにお願い申し上げたいと思えますが、(3)の「文化財の保存・活用」以降は、非公開とさせていただきます

ので、ご理解をお願いいたします。それでは、進行を白鳥市長の方でお願いいたします。

#### 4 協議事項

##### (1) 平成28年度伊那市教育委員会運営方針について

白鳥市長

それでは、「平成28年度伊那市教育委員会運営方針について」を、事務局から説明をお願いします。

北野学校教育課長

松田教育委員長さんからお願いいたします。

松田教育委員長

それでは、私の方からお願いいたします。

##### 1 伊那市の教育理念は「はじめに子どもありき」

はじめに、伊那市の教育理念は「はじめに子どもありき」でありまして、定着してきたなあとと思いますが、この理念の根源にある先達の教えを振り返ってみたいというふうに思います。

まず、下伊那の平谷村でもって、教員をされておりました林芋村先生の教えです。「深雪せる 野路に小さき 沓の跡 われこそ先に いかましものを」これは、昭和59年の2月、議会で、当時の藤本三郎先生がお話をされたので、大変有名なんですけれど、当時、学校が大変荒れておりました、教師としての心構えを林先生の教えからとられたものであります。

次が、手塚縫蔵先生ですが、この先生は辰野が生んだ先達、矢島先生と非常に関係が深い先生で、矢島麟太郎先生は宮田の唐木順三先生と大変深い関係にありますので、そういうつながりのある先生ですが、この先生は、『児童を軽蔑する勿れ。生徒を恐れよ。』『恐れよ。』というの、生徒に気遣えという意味だと思います。『慎むべし。』生徒に丁寧に対応せよという意味だと思います。『彼らは天使なり。神の国の民に近し。純粹なり。熱あるべし。』『熱あるべし。』というの、研ぎ澄まされた存在であるということだと思います。『正しかるべし。』真の姿がある。『必ずひびくものあるべし。否神見つゝあり給ふを思へ。然り児等に語るに非ず、神の前に語る也。』有名な教えです。目の前にいる子どもは子どもではない。神であるという考え方ですけれども、先生は敬虔なるクリスチャンですので、この「神」という言葉を使っていると思いますけれども、真実、誠の存在であるというふうに解釈できるわけです。

次に、淀川茂重先生ですが、最後、弥生が丘高校の校長先生を務められまして、退職され、後に信濃教育会に入られまして、雑誌「信濃教育」の編集を長く続けられた信州教育の大先達でありますけれども、「教育の行きづまり、それはどこに打開されて然るべきであるか。児童の教育は児童にたちかえり児童によって児童のうちに建設されなくてはならない。そこからではない。うちからである。児童のうちから構成されるべきものである。」これが、信州における総合学習の根幹になっている教えだと思っております。

次に、鎌倉時代の道元禅師の教えですが、『たとひ七歳なりとも、われよりも勝な

らば、われ、かれにとふべし。・・・七歳に問法せんとき、老漢礼拝すべきなり。』  
「老漢」というのは、年上の人あるいは、道を求めている人とでも解釈すればいいと思います。『奇異（優れた）の志気（志）なり、古仏（道を求める者）の心術（心の在り様）なり。』ということです。

染色史家の吉岡幸雄さんは、『この仕事の古典を観る。歴史を振りかえる。これが、こわさ（畏）を知る一番の学び』というふうに教えています。

また、唐木順三先生は、根源を学ぶことを『底力を身につける学び』と教えている。

伊那市の特色ある教育は『はじめに子どもありき』の教育理念を根源としていますけれども、教育理念の更なる深化のために、伊那市の子どもたちの教育に精進いただいている先生方に『底力を身につける学び』を期待する伊那市の教育行政でありたいというふうに思います。

このところは、研究修養に力を注いできましたけれども、今回の重篤な非違行為の発生を思い、このところを更に考えていかななくてはならないという思いで考えてみました。

## 2 伊那市の教育目標 『歴史と文化を大切にした人を育むまちづくり』

次に、伊那市の教育目標ですが、「歴史と文化を大切にした人を育むまちづくり」ということでありますが、「伊那市は歴史と文化に富んだまち」、このことが内層から見えることがなければ大切にしている行為は育まれない。内層から見えることを育むために、まず、

学校教育にありましては、

「肉眼では見えているけれども、心眼では見えていない『ものやこと』を見えるようにすることが教育の第一義である。」このことの具現は、宮澤賢治が『身体で覚えなさい。すると知識に感動できるのですよ』と教えていますけれども、体験を重んじた教育の更なる充実に努めることが求められると思います。

社会教育にありましては、

市民が地域の歴史や文化を学ぶ機会を保証したり、教育行政が積極的に発信したりすることが求められるというふうに思います。

スポーツ振興にありましては、

「ソフトボールのまち」「春の高校駅伝のまち」「山岳のまち」など、培ってきたスポーツ文化の一層の振興に努めることが求められるというふうに思います。

これらのことを具現することによりまして、歴史と文化を大切にした市民が育ち、市民の伊那市への帰属意識が一層高まることが期待できる。

このことは、伊那市の教育行政が、伊那市の発展、充実に寄与する具体の姿と考えます。

## 3 平成28年度教育委員会重要施策

### 【総合教育会議への対応】

次に、本年度、平成28年度教育委員会の重要施策ですが、まず、現在行われている

まず総合教育会議への対応ですが、その一つは、

- (1) 「歴史と文化を大切にした人を育むまちづくり」を基本目標とする「伊那市教育施策の大綱」の日常的な検証を怠らないように努めることが大事だと思います。
- (2) 2つ目に、常に学校・社会教育現場の実態把握に努め、実態に基づいた意見交換ができるように努めるとともに、伊那市の教育の更なる振興のために積極的に、我々教育委員が提言していくことを責務としたいと思います。

#### 【教育委員】

- (1) 教育の①政治的中立性、②継続性、③安定性を不易とする教育行政機関として機能する委員会となるよう委員一人ひとりの責務を果たす。具体的には、
  - ア 教育委員は、徹底した議論を通して、合議により教育行政を執行する責務を遂行することに努めていきたい。
  - イ 市民の負託に応える合議を導くためには、情報を把握していることが欠かせません。教育委員が、自ら情報の収集に努めることはもとよりであるが、事務局にあっては、『報告・連絡・相談』の徹底に努めていただきたい。
- (2) 「教育委員会」の活動充実と活動の発信についてですが、
  - ①現地視察、②議会総務文教委員会との懇談、③各館長との懇談、④PTAとの懇談等に努めるとともに、定例教育委員会とは別に、折々の課題を自由討論する会を開催し、教育委員会の活性化に努める。

#### 【学校教育】

- (1) 伊那市学校給食食農体験事業「暮らしのなかの食」充実・定着の推進  
指導者の内山節先生から『これからの学校のあり方への問題提起をしている教育活動である』という評価をいただいております。この問題提起をしているという中身を、4つ考えてみました。
  - (ア) 児童・生徒が主体となって進め、『発想⇒構想⇒実践⇒自己評価⇒発想⇒』というサイクルを回していく、いわゆる『意欲に関わる学力向上』の育みに努める。
  - (イ) 地域社会との連携を推進し、『信州型コミュニティ・スクール』の核としての活動として充実させていく。
  - (ウ) 農業活動は総合学習です。あらゆる教科目が生きている。教科の芽を育み、教科学習へと発展させ、質の高い活動に育んでいきたいと思えます。
  - (エ) 学級・学年の核となる活動として充実させ『感情共同体』、私たちの学級あるいは私たちの学年という感情を育むように努める。このことは、いじめ・不登校対応への道にもなっていくと考えます。
- (2) ICTを活用した教育の充実
  - (ア) 地域の特色ある学習材の提供
  - (イ) 優れた教師の授業実践を学ぶ
  - (ウ) 学校間を結ぶ連携授業 を考えました。

#### 【生涯学習】

- (1) 「子どもが集う公民館活動」  
高校生・中・小学生、そして地域住民の皆さんが入り交じった教育活動の推進

- (2) 「東京藝術大学との交流事業」
- ・ 第30回伊澤修二記念音楽祭
  - ・ 藝大の先生、学生による小中高校生の音楽、美術指導

#### 【文化振興事業】

- (1) 各館共通のテーマをもった事業の実施
- ・ 本年度は、中村不折生誕百五十年記念事業 が既に始まっています。
- (2) 地域研究スペースの設置(高遠町歴史博物館内)
- ・ 地域資料等の調査研究を希望する住民(市民大学修了生など)のために研究スペースを新設する。

#### 【スポーツ振興事業】

児童・生徒のスポーツ離れ、体力の低下が課題となっている。このことを受け止めたスポーツ振興が求められる。

- (1) 「ソフトボールのまち」「春の高校駅伝のまち」などの一層の充実に努め、スポーツのまち伊那市への誇りを高め、スポーツへの興味・関心を育む。
- 「春の高校伊那駅伝」男子は、本年度第四十回記念大会となる。これを機に一層の発信に努める。
- (2) 「市民体育祭」「総合型地域スポーツクラブ」「スポーツ少年団」「社会体育としての部活動」等の検証に努め、地域社会における児童・生徒のスポーツ参加の推進を図る。

このように考えましたが、ご協議いただきたいと思います。

白鳥市長

今の説明についてご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

宮脇教育委員長職務代理者

伊那市の教育理念「はじめに子どもありき」について、ずっと毎年理念は変わらないということに来ています。始めの理念がしっかりしていないと、現代に流されて、つついといろいろ新しいことに目が行ってしまうと思うんですが、やはりこれはきちんと毎年、委員会の時とか、委員長さんがこの話をしてくださるんですけど、その度ごとに立ち返って、理念として確認しながらやっていくことが大事なことだと思うので、このような形で理念をきちんと置くことは大事なことだと思います。

白鳥市長

はい、ほかはどうでしょうか。

田畑教育委員

理念のこともそうなんです、教育委員になるまで、伊那市の教育理念が「はじめに子どもありき」であることを知らなかった。この発信というか、もしかすると、企業の経営者や地域の人たちが、伊那市の学校教育のスタンスが「はじめに子どもありき」だと知らなくて、学校教育が浸透する手段として入ってくるとすごくいいなあと思ひまして、こんなに素晴らしい理念を持っていますので、そんな流れがこれから必

要かなと感じました。それから、要望なんですけど、先程の市長の話で、地方創生の話の中で、今あえて、キャリア教育という横文字のものを入れないってことも一つのスタンスかと思うんですが、ふるさと教育と、郷土愛教育とかキーワードが分かり易く捉えられる時代になってきたので、もしかするともう要素は全て入っているかもしれないんですけど、何か分かりやすいキーワード発信で、このあと出てくる副読本もまさに郷土愛を育むための資料になってくると思いますが、3つのキーワードは全国的にも認知され始めているので、キャリア教育か、ふるさと教育か、郷土愛教育をキーワードとして入れていただくと非常に活動として動きやすいという気がします。

白鳥市長

文科省から大臣表彰ももらっており、伊那市のキャリア教育の取り組みは大変高い評価を受けていて、先進的なものなので、そうしたものがどこかに入ってもいいんだろうね。日本中言っている話で実践も始まっているので。どうですか。どこかにキャリア教育を入れていくというのは。学校教育なのか、2番の社会教育に入ってくるのか、どうでしょうか。いいでしょうかね。そんなキャリア教育の取り組みを入れてもらうということで。今日、飯田の原さん、地名調査研究会から手紙が来ていて、飯田で発表会をしたんですね。そこで、伊那市の古い地名調査の発表をしたら、それがすごい話題になったらしくて、そのことについて感動を込めて手紙をもらいました。大変素晴らしい取り組みをしていると、あれは今年が最後になるんですね。そうしたこともどんどん伊那市の教育の中で発信をして、やってもらうこともとても大事だと思いますので、内部だけでなく外へ向かって発信していく。ほかにどうでしょうか。

原田教育委員

ずっと後ろの方になってしまうんですけども、スポーツ振興事業のところ、子どもたちの体力低下が課題になっているとあるんですけど、私も子どもたちの運動に携わっているということもあるんですから、生活の中でどんどん体の軸がずれてきているということがあるんです。それで、体全体を使った動きができなくて、どうしてもケガをしやすかったりということがありまして、私はずっと言っているんですが、姿勢というものがあまして、限られた指導者にはなってくるんですが、専門の指導者が学校の中に入ることではないんですか。

北野学校教育課長

専門の指導者はいないですね。

原田教育委員

それはあまり歓迎されないということなんですか。

北野学校教育課長

アプローチがなかったというところもあるんでしょうね。

原田教育委員

特殊なことではないんですけど、生活の中にソファがあって、寄りかかった生活であるとか、昔だったら、生活の中で、正座だったりあぐらだったりきちんと背筋

が伸びることがあったり、あと、和服ですよ。着物を着ていたということがあったり、剣道だとか柔道だとか、華道、茶道もそうなんですけど、「道」がつくものはまず姿勢を作ることがあるんですけど、欧米人に比べて黄色人種である日本人は体幹が弱いんですよ。3割くらい背筋力が弱いもんですから、それを鍛える意識がどうしても必要なんですね。それで「道」のつくものは姿勢が伸びるんですけど、それによって体を造っていくという基本があるんですけど、それがなかなか見直されないというか、西洋的なスポーツに向かってしまうと、そういうものが西洋の方には元々必要ないので、それが日本人の場合にはそこからやらないとなかなか難しい。何も手につかずにいるところにそうしたものを取り入れていただくと体力の低下に対応し充実してくると思うんですが、そうしたことはいかがでしょうか。

白鳥市長

それって科学的な数値はありますか。

原田教育委員

はい、出そうと思えば出せます。

白鳥市長

すぐに導入ということはできないと思うんですが、研究していくということは可能かと思います。長谷小でしたっけ、イスが特殊なのは。

北原教育長

そうです。

白鳥市長

見てないけれど、確認した。

北野学校教育課長

はい、何度か見ております。ほかの学校の先生方が長谷小学校に行くと姿勢の良さに驚かれるそうです。

白鳥市長

そうしたことも研究したり、例えばそれを木で作ることは可能ですか。

北野学校教育課長

はい、今、長谷小で導入しているのは何年か前、専門の業者さんから姿勢矯正用の椅子ということでとり入れたものです。

白鳥市長

それは木なの。

北野学校教育課長

はい、一部木とスチールを組み合わせたものです。



白鳥市長

もしそうしたものができれば、地元の木を使ってということも、そうしたものを含めて研究ですかね。

北原教育長

今の件ですけれど、姿勢というのはとても大事なことで、各学校とも、基本としてしつけていくべきことだと思うんです。例えば、授業に向かっている時の姿勢もそうですし、発言する時に、「はい」「立つ」というリズムなんですけれど、そういうことがきちっと行くというのは、基本のところはきちっとできているところでできてくる。その辺については大事にしていきたいと思います。

白鳥市長

ほかにはどうでしょうか。

全教育委員（なし）

白鳥市長

それでは、先程ありました、キャリア教育、郷土愛という言葉をごどこかに入れてもらうということで、お願いしたいと思います。

## （２）郷土学習副読本の作成について

白鳥市長

それでは、次に、郷土学習副読本の作成について、事務局から説明をお願いします。

北野学校教育課長

伊那市郷土学習副読本作成につきましては、昨年度２月の総合教育会議の際もお諮りをいたしまして、いろいろご意見をいただきました。当時は社会科の資料集ということで教科書と連動するようなもので進めておりましたので、なかなかテーマがちぐはぐなところがあったということで、ご意見をいただきまして、昨年集めた資料を有効に活用しながらということではありますが、考え方を少し修正して、今日改めてご提案させていただきたいと思います。

１ 伊那市郷土学習副読本作成の目的ですが、

伊那市の小中学校に通う子どもたちが、自然、文化、歴史等、世界に誇ることでできる伊那市のすばらしさを知り、伊那市に愛着と誇りを持ち続ける心を育むため、郷土学習副読本を作成したいとするものでございます。

２ 作成にあたっての基本事項からいくつかお話しさせていただきますと、

（１）副読本編集委員会を組織し、正副委員長は、全体構想の構築及び委員の執筆指導を行う。

（２）作成期間は１年間。１２月の成案を目指す。

（３）社会科資料ではなく、郷土学習副読本（読み物資料）を作成する。

（６）作成上の留意点

① ５・６年生（以上）を対象とし、子どもが読みやすく、わかりやすい表現にする。

② 必要なときに気軽に読める本とする。

それだけでは、活用の率が上がりませんので、例えば、5・6年生の朝読書の時間の教材にしたりすることを考えていきたいと思います。

④ 番目になります。1項目について見開き2ページを使い、全体で100ページ以内とする。

これからお返ししますが、県立歴史館で出している資料、このあたりを目指していきたいと考えています。また、ご覧いただきたいと思います。

⑤ 文章を補足し、わかりやすくするため、写真をふんだんに入れる。

推進方法でございますが、ご覧いただきまして、既に正副委員長の会議を2回持っております。また、6月の16日には第1回目の会議ということで、おめくりいただきますと4ページ、5ページには、この正副委員長会で取り上げるべきテーマをお示しさせていただいております。

こちらの方、大きく項目を分けて

I 豊かな伊那市の自然ということで、

・1 2つのアルプスに抱かれた伊那市から3項目、ご覧の項目で考えております。また、

II 番目、伊那市の歴史ですが、

・4 旧石器時代から縄文時代

・5 小学生が発見した前方後円墳（東春近老松場古墳群）

歴史については、現在のところ13項目を考えております。また、

III 番、伊那市の人と文化財では、

1 人物として、阪本天山、井上井月、池上秀畝、伊澤修二といった6名の人物を取り上げるところでございます。

2 文化財では、

・23 高遠城址公園とタカトオコヒガンザクラ

・25 高遠石工、このあたりはボリュームを持たせることも考えております。5項目を考えております。

IV 伊那市の産業のところでは、

農業、製造業、食文化、観光というようなところでアプローチをしていきたいということでございます。最後、

V 未来に羽ばたく伊那市ということで、

伊澤修二記念音楽祭、また、暮らしのなかの食、そして、50年の森林ビジョンといったものも触れていきたいということでございます。

先ほども申し上げましたが、目的のところ、伊那市の素晴らしさといった項目を使いながら、執筆者の先生方には少し大げさに、子どもの心に訴えるような編集を心掛けていただきたいと考えているところでございます。是非、今日、総合教育会議に取り上げさせていただきましたので、項目案の部分にご意見等ありましたら頂戴いたしまして、6月16日の委員会に向けて反映していきたいと考えているところでございます。

白鳥市長

内容についても、大分詰まってきましたけれども、今ふっと思ったんだけれども、保科正之ってどこかに出てくるんですか。

北野学校教育課長

高遠藩の部分で触れるかというところではありますが、抜き出してみることも考えてみたいと思います。

白鳥市長

高遠藩で取り上げて、あと、内藤家とかね、

北野学校教育課長

歴史のところにあげてあります。

白鳥市長

細かいところを見ていけば意見が出てくると思うんだけど。

北原教育長

文化財で建物、例えば羽広とか、熱田とかそうした視点はいかがでしょうか。

白鳥市長

熱田社もそうですね。お寺を上げ始めるときりがなくなってしまいそうですね。

北原教育長

1面の地図配置にしますか。

北野学校教育課長

そうですね。地図と年表は前のところへつけていきたいと思います。

松田教育委員長

例えば、宇津木の薬師堂はあまり知られていないんですが、すごい貴重な伊那市の文化財なんだよね。そういう隠れた、でも伝えていかなければいけない、そうしたのも記載しておいた方がいいんじゃないかと思いますけどね。

白鳥市長

どんどん出していただいて、検討していきたいと思います。

白鳥市長

羽広なんかは60年に1度の御開帳があるので、宇津木は33年に一遍でしたっけ、そこら辺で拾っていくと何かできるかもしれないね。どうでしょうかね。

白鳥市長

最初の3項目、ここをボリュームを持たせてもらって、知ってもらいたい入笠山とか高原の話でもいいだろうし。

田畑教育委員

人物は産業界を入れるとバランス的に問題がありますか。例えば、向山一人さんとか、春日公園のところには碑もありますし。「伊那谷に太陽を」というキャッチフレ

ーズもあるし、現存の企業ではあるんですが。今、評価の分かれるものは載せるべきではないという考え方なのか、いろんな思いを持って産業を興した人たちがここで見ると、産業人がほとんどいないですよ。なんとかしてこの地域の産業を振興しようとした人たちが出てくるといいのかなあと思うんですけど。

松田教育委員長

それはね、伊那市の特色ある製造業ってあるじゃないですか、こういう中に盛り込んだ方が取り出してやるより無難じゃないかと思うんです。

田畑教育委員

そういうことはありますか。

松田教育委員長

観光のところに山岳が入っていない。「物見遊山から体験型観光へ」ここに入っているということですか。

北野学校教育課長

そうですね。どちらかというところ、最初の「2つのアルプスに抱かれた伊那市」のところに含むかというところなんです。

田畑教育委員

起業家が出てくるような、この地域からこんな起業家が出ているんだというような、別に1社に限らなくていいんですけど、子どもたちが自分も将来社会を変えるような会社を作りたいとか、起業人になりたいとか、産業を興したいとか、思ってもらう動機づけがテイストとして入っているといいかなあという気がするんですけど。なかなか取り扱いが難しいですか。

北原教育長

取り上げ方の一つとしては、ここにある3番の人物のところ、伊澤修二先生、伊澤多喜男先生がいるんですけど、多喜男先生のところ、3男の信三郎さんが養蚕業を、いわゆる糸ではなくて製品にする、そういう起業をして、豊田佐吉さんより先に織機を発明したというような、このようなことは入れたいと思います。

田畑教育委員

どうも産業につながる部分が弱いかなあと思います。

原田教育委員

古いものっていうか、そういうことに限定しているということですよ。

田畑教育委員

基本登場している人は死んでいる人ですよ。評価が定まっているということですね。

原田教育委員

例えば、信大の研究室と企業とタイアップして取り組んでいるというような現在進んでいる、そうしたことは入れるべきではないんですね。

白鳥市長

もちろん、伊那谷アグリイノベーションに取り組んではいるんだけど、成果がきちんと出ているわけじゃないから。

原田教育委員

やはり成果がきちんと出ているのものでないと入れるべきではないということですね。

田畑教育委員

もし、これを読んで「よし、伊那市にしよう。」という動機づけになるのではと思うんですが、欲張り過ぎですか。未来に羽ばたく伊那市の項目では、こんな先進的なことをやっているというのを1行くらいでも、紹介できたらどうでしょうか。

白鳥市長

この中でなら行けるかもしれないね。まず、みんなで知恵を出して作ってみて、何年かに一遍改訂版を出していけばいいので。

松田教育委員長

ちょっと確認してもらいたいことがあるんだけど、3ページの作成上の留意点というところに5・6年生以上を対象にするとされている。このことなんですけれど、学校では3年生が身近な地域をやって、4年生では県に広がって、5年生が日本全体の産業に広がって、6年生が歴史に広がっていくという、そういう学びが展開しているんですけど、5・6年生以上を対象にするという趣旨はどこにあるんですか。

北野学校教育課長

はい。以前は4年生から対象とするということも出ていたんですが、せっかく作ったのであれば中学生まで、何かの時に読めるようにという中では、ある程度、漢字の習得の部分ですね。この部分も念頭に入れました。また、一般的に5年生の能力であるとか、思考の範囲、こういったものが大人並みになってくるということで、新聞、テレビ、そうした情報の理解も進む歳ということで、そのタイミングで資料を読んでもらうことが効果的ではないかということで考えたところです。

北原教育長

昨年、3年生、4年生の資料で、身近なものを学ぶものを収集してありますので、そういうものについては、別途の形で学校で使えるようなふうにしていただければいいかなあと考えて、焦点をこちらの方に持ってきている。

松田教育委員長

配布する時には、5年生以上に配布するんですか。

北野学校教育課長

はい、初回は5年生以上、中学生まで含めて配布したいと思うんですが。

松田教育委員長

中身を見るとね、3年生や4年生でも、開いて使いたいなあということがたくさんある。だから対象が5・6年生以上でもいいんだけど、3年生、4年生でも、使えるから、地域の学習をしている学年に配布した方がより効果があるんじゃないかと思うので、考えてもらいたいと思います。

白鳥市長

例えば、難しい表現のあるところは先生が読みくだいて話をするというようなことは可能なので、なるべくたくさんの子どもたちに見てもらおうことがいいと思うよ。

松田教育委員長

学習がうんと進展してくれば、上伊那郡誌だって3・4年生が読み合わせるからね。必要に迫られれば、そういうことが学習なんだよね。だから考慮してもらえればありがたい。

北野学校教育課長

仮に表現は5年生を対象においたうえで、3・4年生にも配布ということでしょうかね。予算も絡んできますので、また、ご相談しながら進めていきたいと思います。

原田教育委員

漢字とかだったら、ふりがなを振ってあげればと思うんですが、そうしたことはできるんですか。

白鳥市長

中学生までとなるとどうなんだろうな。

松田教育委員長

配ったものを持ち上げていけばいいので、配らないでしまった中学生には申し訳ないんだけど、毎年3年生に配ればそれを持ち上げていけばいいので、1回ずつ配ればいいということになりますよね。だから、今回の中学生には申し訳ないが、ごめんねという形でいいんじゃないですか。

北原教育長

ごめんねですか。できれば中学生にはこの内容を見て、自分の書棚に置いてもらいたいと思うんですけれど。予算のこともありますから何とも言えないんですけれど。

白鳥市長

まあ、予算も大したことはないでしょう。では、この件については以上として、次に行きたいと思います。

### (3) 文化財の保存・活用について【非公開】

(4) 地域研究スペースの設置及び活用について【非公開】

(5) 体育施設のあり方の検討について【非公開】

(6) その他

白鳥市長

教育委員会の方は特によろしいですか。

全委員（なし）

5 閉 会

白鳥市長

それでは伊那市総合教育会議を終了させていただきます。